



浦和レッズ
3度目の
アジア制覇！



©URAWA REDS

おぎ わら たく や
荻原拓也 選手

Ogiwara Takuya

DF / 23歳 / 1FC 川越水上公園
大東東小学校 / 野田中学校 卒業



26
背番号

- 左足のキックと、スピードが武器
- 人一倍熱い心を持つ左利きのサイドバック

「優勝した瞬間は、多くの人と感動を共有できる、何にもかえがたい経験でした」

ACL (AFC チャンピオンズリーグ) 2022 決勝・第2戦が5月6日に行われ、浦和レッドダイヤモンズ(浦和レッズ)がサウジアラビアのアル・ヒラルを撃破。5大会ぶり3度目となる大会制覇を達成！

決勝戦に出場した川越市出身の荻原拓也選手にお話を聞きました

広報室 ☎224-5495
Fax 225-2171

約5万人の観客の中、どのような気持ちで決勝戦に出場しましたか？

アウェイの第1戦では、サポーターの数も違い、言葉では言い表せないような空気感がありましたが、いつも通りやろうと思って試合に入りました。第2戦では、そのまま試合を終わらせるタスクを持って出場したので、平常心を心掛けました。

優勝が決まったとき、ピッチ上でどのように思いましたか？

プレッシャーは感じていましたが、いろいろな人がつないでくれた決勝戦だったので、ほっとした気持ちになりました。

練習で意識していることは？

一番は練習を100%でやる。もうちょっとやれたなと思う日のできるだけ少なくする、そのための準備をしています。練習でやったことが試合に出るので、試合を意識して行っています。

魂のこもったプレーが印象的ですが、心掛けていることは？

スポーツはエンターテインメントの要素もあるので、一つ一つのプレーで、来てくれた方がもう一度観たいと思ってもらえるように、選手は表現しないとイケないと思います。一つ一つのプレーにこだわって気持ちを乗せたプレーを大事にしています。

プロになるために大切なことは？

サッカーに真剣に向き合うこと。夢に向かってやれるかということがどれだけ大事であるか、プロになり改めて分かりました。人生の優先順位を間違えなかったのが大きいと思います。ただ、成長過程なのでいろいろ経験することも大事だと思っています。

でもやはりサッカーに対する気持ち、そこはだれにも負けていなかったです。

小学生時代のクラブチーム「1FC 川越水上公園」で、心に残っていることはありますか？

武器を磨き続けると常に言われ続けていました。個人の能力を磨いていくとのコンセプトを持ったチームなので、自分の武器、その時はドリブルを磨いていました。1対1は負けない、そういう根本の部分は今につながってると思います。

地元川越の好きなところを教えてください

住み慣れた町で、都会過ぎず田舎過ぎず、絶妙で居心地が良いです。不便ではないけど、場所によってですが、ちょっと田舎な感じが好きです。皆さんご存じだと思いますけど、やっぱり小江戸はいいなと思います。

プロを目指す子どもたちに向けて、アドバイスをお願いします

サッカー選手にどれだけなりたかだかだと思います。そこまで気持ちが無ければそこで終わるし、楽しいことよりは、つらい経験の方が、人によって多いと思います。サッカー選手になりたいという気持ちと、その気持ちの木の幹がどれだけ太いか、なりたかだかという気持ちをどれだけ強く持てるかが大事になります。そこに生まれ持った才能はないと思います。気持ちを強く持って頑張ってください！



©URAWA REDS

浦和レッズでは
さらに2人

川越市出身選手
が活躍しています！



©URAWA REDS

まつ ぎき かい
松崎快 選手

MF / 25歳
川越ひまわり SC

- サイドから駆け上がりスピードのある痛快なドリブルが持ち味
- 精度の高い左足のキック



©URAWA REDS

はや かわ じゅん ぺい
早川隼平 選手

(ユース所属・2種登録)
MF / 17歳
1FC 川越水上公園

- レッズ史上、最年少ゴール(Jリーグ公式戦)
- 左足から繰り出される豪快なシュートが持ち味